

令和4年度 事務事業マネジメントシート

		事務事業No.		10-	1
事業名	高齢者福祉事業	会計	款	項	目
		一般	3	1	2
政策	3 みんなが活躍できる地域共生社会をつくるために	課名	健康長寿課		
施策	3-3 高齢者福祉の推進	係名	高齢福祉係		

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	65歳以上の高齢者	目的 (対象がどのような状態になっているか)	介護保険サービスを補足する形で提供するサービスなどを推進し、たとえ介護が必要となっても高齢者が住み慣れた自宅で生活できるような体制を構築することにより、高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも健康で生きがいにあふれた生活を送ることができる。
事業内容	緊急通報業務・・・一人暮らし高齢者等で発作を生じる持病がある方に緊急通報装置の設置を行う。 シニアクラブ補助事業・・・地域の高齢者による相互支援活動等に対し助成する。 シルバー人材センター補助事業・・・高齢者の社会参加の促進、生きがい就労への支援を行う。 ホームケア事業・・・在宅寝たきり高齢者等に対し、おむつ代等の助成を行う。 敬老事業・・・長寿者に対するお祝い事業を実施する。			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度 (目標)	
	1	シルバー人材センター会員で仕事をしている登録者数	291	270		人	↑	370
2								
3								
4								
5								
6								
		令和3年度 (決算)		令和4年度 (決算)		令和5年度 (予算)		
全体事業費 (千円) A+B				25,848	26,324	72,026		
財源内訳	直接事業費 A				22,218	24,344	69,950	
	うち一般財源				22,218	24,344	69,950	
人件費 (千円) B				3,630	1,980	2,076		
内訳	一般職員 (人・千円)		0.55	3630	0.3	1980	0.26	1,716
	臨時職員 (人・千円)		0	0	0	0	0.2	360

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		町関与の必要性	B 町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡充 (事業内容を現在の規模を超えて拡充すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①R4年度の改善計画	高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に沿って、引き続き高齢者福祉事業を精査、見直し検討する。	③取組の課題	75歳以上の後期高齢者の増加がピークを迎えるため、高齢者福祉事業の早急な見直しが必要となる。
②R4年度に実施した取り組み	高齢者福祉事業については第8期介護保険事業計画に沿って見直し検討を開始した。	④今後の改善計画	高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に沿って、引き続き高齢者福祉事業を精査、見直し検討する。